



研究者氏名 ボウ レンチュン 包 聯群	所属機関 大分大学経済学部/経済学研究科	関連キーワード(複数可) :言語保存、言語保護、言語継承、言語復興、言語政策、言語計画、言語接触、言語変異、モンゴル語、満洲語、コミュニティ言語、学校教育、危機言語
主な研究テーマ 危機言語の保存・保護と継承・復興について —中国における少数民族言語を中心に—		主な採択課題 ・基盤研究(B)平成23～27年度(配分総額:5,330千円) 課題名「中国黒龍江省におけるモンゴル族コミュニティの言語維持保存や継承復興への取り組み」 ・基盤研究(C)平成24～26年度(配分総額:5,070千円) 課題名「消滅に瀕する満洲語の社会言語学的研究—ドルブットモンゴル族コミュニティの言語と比較—」

① 科研費による研究成果

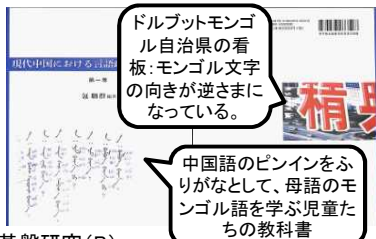
・基盤研究(B)と基盤研究(C)

研究背景と問題の所在:中国黒龍江省におけるモンゴル人の多くは自分の母語であるモンゴル語を忘れ、中国語を母語としはじめ、中国語による教育を受けるようになった。したがって、衰退しつつあるモンゴル語を保存し、モンゴル語を学校で学べる環境作りをし、モンゴル語を継承していくようにすることが基盤研究(B)の目的であった。

中国における満洲人は1千万人を超えているが、黒龍江省における三家子村の3-4人の年配者を除けば、ほとんどの人が自分の母語を忘れ、中国語を母語としている。したがって、満洲人話者のデータを保存し、学校でも満洲語を学べるようにサポートすることが基盤研究(C)の目的であった。

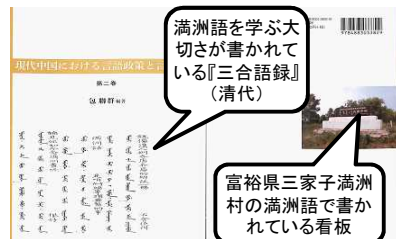
研究成果:

- 1)「日中国際ワークショップ」を五回開催し、意見交換や交流ができ、そして同分野の研究動向を把握し、情報を収集することもできた。
- 2)『現代中国における言語政策と言語継承』(1巻(2013)、2巻(2015)、3巻(2016))を出版(編著、三元社)。



ドルブットモンゴル自治県の看板:モンゴル文字の向きが逆さまになっている。

中国語のピンインをふりがなとして、母語のモンゴル語を学ぶ児童たちの教科書



満洲語を学ぶが大切なことが書かれている『三合語録』(清代)

富裕県三家子満洲村の満洲語で書かれている看板

・基盤研究(B):

中国黒龍江省におけるモンゴル人コミュニティの言語維持と言語教育、さらに言語保存や言語の継承復興のために取り組んだ結果、下記の研究成果を得た。

- 1) 当地域の言語データ、メタ情報などを収集することができた。
- 2) 当地域の言語データを保存し、今後の言語継承に役に立つことができた。
- 3) 当研究により、当地域の研究者、政府機関の関係者及び地元の人々も言語保護・言語継承に対する意識が変わった。モンゴル語を教える学校も増え、コミュニティによる言語・文化の保護・継承の動きも見られるようになった。

・基盤研究(C):

- 1) 危機言語満洲語口語のデータ(語彙、物語など)を収集することができた。
- 2) 危機言語が衰退していくプロセスを解明し、データの不足を補い、日本を含む他の地域とともに危機言語のデータを共有し、比較研究を行うことが可能である。
- 3) 学校で満洲語を教えることの重要性を再認識させ、当地域の言語継承の意識を高めることができた。

② 当初予想していなかった意外な展開

基盤研究(B)による研究の影響で、当地域の泰来県では、

- 1) 重点高校「泰来一中」に「モンゴル語」を学ぶ生徒のクラスを設置し、全国の大学に合格者を多数送り出した。
- 2) 泰来モンゴル人連合協会(「蒙古族聯誼会」)が設置され、「言語・文化」の継承などに関する催しが毎年開催されるようになった。
- 3) 中国教育部が率いる「中国語言資源保護工程」という国家プロジェクトに「黒龍江省ドルブットモンゴル族自治県のモンゴル語」が保護言語として採用された(データは将来、「電子データ博物館」に保存され、インターネットで公開される)という。

基盤研究(C):4) 基盤研究(C)の研究成果がきっかけで、中国政府が保存を断念していた満洲語が再び注目され、「中国語言資源保護工程」という国家プロジェクトに「三家子村の満洲語」が採用された(データは将来、「電子データ博物館」に保存され、インターネットで公開される)。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・黒龍江省における少数言語の教育が重視されるようになり、民族言語の維持・保護や継承に有利な働きが期待できる。また、無形文化財である「言語・文化」の保護に貢献でき、国際社会、地域へ還元することができらるだろう。

・外国研究者の研究による当地域社会への貢献は、当地域の政府、研究者及び教育者に大きな影響をもたらし、当地域においての少数言語に対する保護・継承意識が少しずつ高まっていくだろう。